

キャンパス点描

女性研究者支援モデル育成事業等合同シンポジウム開催



平成20年2月13日、徽音堂にて「女性研究者支援モデル育成事業等合同シンポジウム」が開催されました。

このシンポジウムは、科学技術振興調整費による「女性研究者支援モデル育成」プログラムを核とし、「女子中高生理系進路選択支援事業」、日本学術振興会特別研究員RPD(Restart Postdoctoral Fellowship)制度について、関連する機関の情報交換と相互交流を通して、長期的・多元的視野のもとに女性の活躍を促す契機となることを目的として文部科学省と本学が主催したものです。

当日は文部科学省 科学技術・学術政策局長 森口泰孝氏と内閣府 男女共同参画局長 板東久美子氏にご挨拶をいただきました。まず「女子中高生の理系進路選択の取組み」について9機関より現状が紹介され、引き続き日本学術振興会理事長 小野元之氏より「RPDの取組み」についての説明と実際に採用された方の報告が行われました。

さらにポスターセッションと昼食をはさみ、午後は「女性研究者支援の取組み」として本学の郷通子学長（総合科学技術会議議員）の基調講演にはじまり、「女性研究者支援モデル育成事業」に採択されている20機関の取組状況が報告されました。引き続き、取組発表者全員が壇上に上がり、参加者も加わって活発なディスカッションが行われました。

最後に、科学技術振興機構理事長 北澤宏一氏より今後の期待、コメントをいただき、合同シンポジウムは盛況のうちに幕を閉じました。

参加者からは「このようなシンポジウムはもっと開催されるべきだ」「男性にも支援を！」「定着するまで事業を拡張して欲しい」というご意見が寄せられました。このシンポジウムを通して、女性研究者に限らず全体的な労働環境の整備こそが急務であり、そのことが男女共同参画社会実現への重要な要素であるように感じました。限られた時間の中ではありましたが、様々な取組みの情報共有と相互交流の稀有な機会になったと思われまます。そして、このシンポジウムが新たなネットワーク構築のきっかけになったことは、大変よろこばしいことだと考えます。

お茶大初の海外拠点

お茶の水女子大学バンコク・オフィスを開設



お茶の水女子大学では、国際戦略に基づき、1) 時代と社会の要請に応え得る優れた女性指導者・研究者の育成、2) 国際社会で活躍できる人材の輩出、3) 開発途上国の女子教育・女性研究者支援の充実、4) アジア諸国より女性リーダーをめざす優れた留学生の受入、5) アジア諸国との共同研究等の推進を達成するため、タイ・バンコクに初の海外拠点を設置しました。

同オフィスは、独立行政法人日本学術振興会（JSPS）と海外活動展開に関する協力支援の委託契約を締結し、同会のバンコク研究連絡センターの一部を共用するものです。平成20年2月22日に、郷学長が現地を訪問し、開所式が行われました。

開所式後に行われた記念レセプションでは、協定校であるタマサート大学、アジア工科大学の学長をはじめとする関係者、JSPSバンコク研究連絡センター、国際交流基金バンコク事務所、ユネスコ・バンコクなどの関係者、及び国際社会で活躍している元留学生を含むタイ、在ラオス、在ベトナムの卒業生が、一堂に会し、今後、オフィスを活用し、より強固な国際連携の構築について熱い期待が寄せられました。



キャンパス点描